

[2019]九州大学情報統括本部年報 : 2019年度

<https://hdl.handle.net/2324/4123611>

出版情報 : 九州大学情報統括本部年報. 2019, pp.1-, 2020-12-01. Information Infrastructure Initiative, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

2019 年度年報の発行にあたって



2019 年度情報統括本部長 久保 千春

情報統括本部は、九州大学の全構成員（学生および教職員）に教育・研究・事務・診療に必要な情報基盤と各種情報サービスを提供することを目的としています。情報基盤研究開発センター、事務局情報システム部、および附属図書館を中心に関連する部局から参加する教員、技術職員と事務職員からなる部局横断的な全学的組織です。2007年度の発足以来、全学からの協力を得ながら、継続的かつ安定的な活動を行っています。

2019年度は、情報担当理事・副学長として安浦理事・副学長が副本部長（CIO（Chief Information Officer）とCISO（Chief Information Security Officer）を兼務）を担当し、小野情報基盤研究開発センター長（副CIO）、伊藤情報システム部長（副CIO）、岡田附属図書館付設教材開発センター長（副CIO）、中島病院メディカル・インフォメーションセンター長（副CIO）、岡村サイバーセキュリティセンター長（副CISO）、谷口倫一郎システム情報科学研究院教授（本部長補佐）とともに情報統括本部のガバナンス体制を整備してきました。情報統括本部が従来から提供しているネットワーク、全学無線LAN（kitenet、edunet）、認証基盤、全学基本メール、様々な教育・研究・業務支援システムなどの管理・運用、ソフトウェアの一括契約による情報環境の整備や学生PC必携化への対応を中心に、以下のような重要なサービスの運用を更新・改善してきました。

2019年度は、学内の各部局が提供するメールサーバなど各種サービスのクラウド化や利便性・安全性のさらなる向上に対する支援を行いました。2017年度に導入したスーパーコンピュータシステムITOの利用は、順調に拡大しており、第5期科学技術基本計画に示された超スマート社会の実現、ならびにAI・ビッグデータ、データ科学及びこれらを活用した研究への本格的なサービスを開始し、我が国の計算科学の基盤(HPCI)を支える中核拠点としての役割を果たしています。さらに、利用者の拡大に向けた取り組みを開始し、スーパーコンピュータ活用のスタートアップ支援体制を強化するとともに、学内の他の研究所や部局と協力して全学的なデータ科学と計算科学を融合した研究活動を変革する事業（汎オミクス計測・計算科学センター）を始めました。

近年、脅威が益々高まっているサイバー攻撃から学内の情報基盤を守るため、情報セキュリティ対策基本計画に基づき、九大CSIRTを中心とした様々な活動を進めています。新入生に対するサイバーセキュリティ教育（必修科目）や教職員に対するサイバー攻撃に関する訓練およびeラーニングによる利用者のリテラシー向上と注意喚起も継続して行い、本学の情報セキュリティ対策の強化を図っています。さらに、内部ネットワーク監視システムを2019年3月に導入し、攻撃や不正利用の検知や解析について精度向上に取り組んでいます。事務部門を中心とした学内文書の取扱いやISMSによる業務の安定性や安全性の強化にも取り組んでいます。

年度末には、新型コロナウイルスの感染拡大による2020年度のオンライン授業に対する準備も開始し、新入生が自宅でPC設定を行えるよう支援に取り組みました。

本報告は、2019年度の主な活動を報告するとともに、将来のサービス向上に向けての方針や方向性を学内外の利用者に周知することを目的としています。情報統括本部が、学内外の利用者の視点に立って、新しい技術を取り入れつつ、安全・安心に、安定して使いやすい情報基盤と情報サービスを提供していけるように、利用者各位の忌憚のないご意見やご要望をいただければ幸いです。